



# 学校評価だより

平成27年度 前期号  
平成27年10月27日  
京都市立正親小学校  
校長 鴨脚 光茂

学校評価アンケートへのご協力  
ありがとうございます。



前期のアンケート結果をもとに  
さらに充実した活動をめざします！！

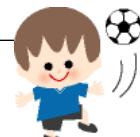
保護者の皆様にご協力をいただいている「みんなで子育てアンケート」によるアンケート調査は、学校評価の大切な指標として皆様のご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。今年度も、7月の夏休み前の時期にご協力をいただきました。前期のアンケート結果をもとに、継続発展すべきところ、改善すべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。



## ② アンケートの質問項目に変更を加えました！

これまでの評価活動を通して、アンケートの結果をさらに教育活動に生かしていくために二つの変更を加えました。

- 《新設》 ◇ 「たてわり活動」について  
○たてわりで楽しく活動することができる



- 《変更》 ◇ 「進んで体を動かすこと」について  
(従来) ○進んで体を動かしたり、運動をしたりしている  
△  
(今回) ○休み時間や放課後には、進んで外で体を動かして遊んでいる  
○学校以外で、進んで体を動かしたり、運動をしたりしている

→学校教育目標のめざす子ども像の達成具合の点検を漏れなく、くわしくするため。

## ③ アンケートへの高い回答率、ありがとうございます。

今回（今年度前期）の保護者の皆様の回答率は、対家庭数で 104.4%。  
お子たち一人ずつに対してお答えいただいている家庭が増えてきています。お子たちが二人、三人おられるご家庭にはご面倒をおかけしますが、それぞれのお子たちを通して、学校の取組を点検していただけると幸いです。今後とも「児童一人に1回答」にご協力をお願いいたします。



では、前期アンケートの集計結果の中で特徴的なものについて、くわしくお知らせしたいと思います。



## ② 子どもたちが「がんばれている」ことを見ていきましょう。

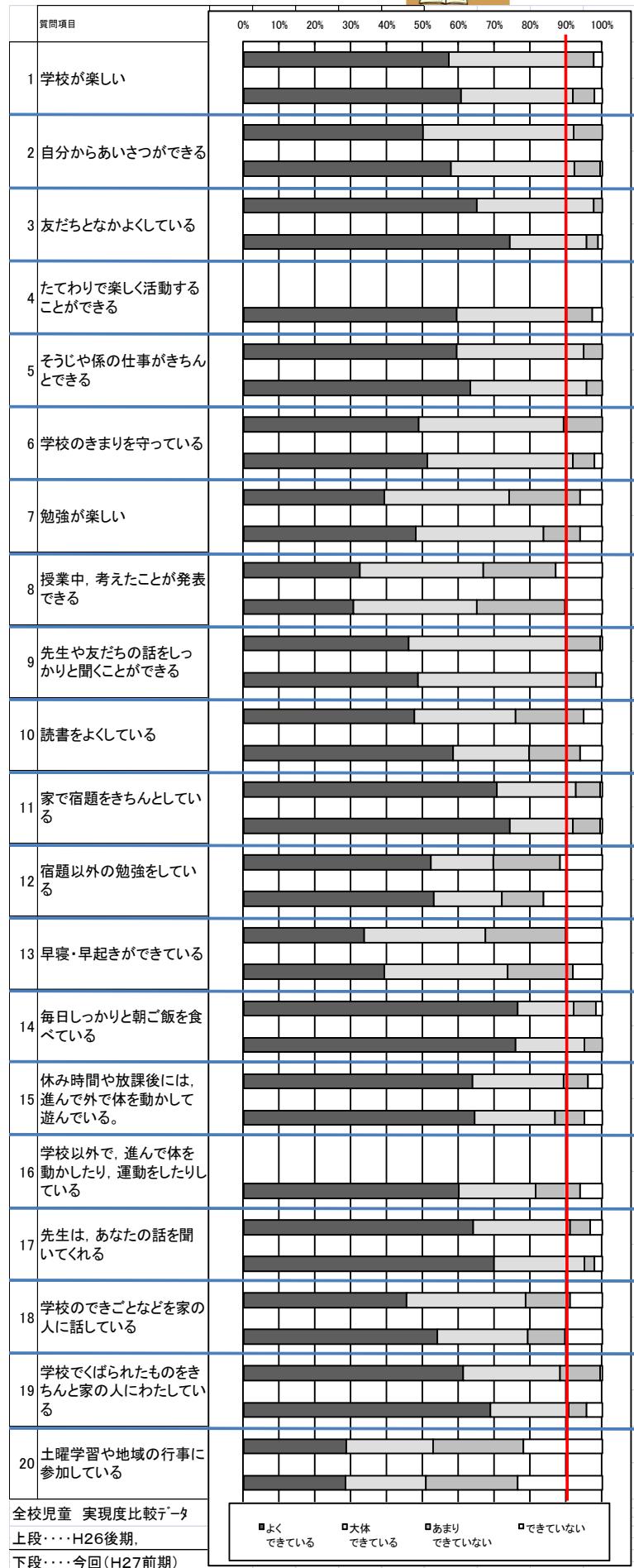
### ◎ 90%以上の児童が「よく出来ている」

#### 「出来ている」と答えた項目

- ☆ 「学校が楽しい」 ..... 91.8%  
〈よく…60.7%, 大体…31.1%〉
- ☆ 「自分からあいさつができる」 ... 92.3%  
〈よく…57.9%, 大体…34.4%〉
- ☆ 「友だちとなかよくしている」 ... 95.6%  
〈よく…74.3%, 大体…21.0%〉
- ☆ 「たてわり活動で楽しく活動することができる」 ..... 90.2%  
〈よく…59.6%, 大体…30.6%〉
- ☆ 「そうじや係の仕事がきちんとできる」 ..... 95.6%  
〈よく…63.4%, 大体…32.2%〉
- ☆ 「学校のきまりを守っている」 ... 91.8%  
〈よく…51.4%, 大体…40.4%〉
- ☆ 「先生や友だちの話をしっかりと聞くことができる」 ..... 90.1%  
〈よく…48.6%, 大体…41.5%〉
- ☆ 「家で宿題をきちんとしている」 ... 91.8%  
〈よく…74.3%, 大体…17.5%〉
- ☆ 「毎日しっかりと朝ご飯を食べている」 ..... 95.1%  
〈よく…76.0%, 大体…19.1%〉
- ☆ 「先生はあなたの話を聞いてくれる」 ..... 95.0%  
〈よく…69.9%, 大体…25.1%〉
- ☆ 「学校で配られたものをきちんと家の人にわたしている」 ..... 90.8%  
〈よく…68.9%, 大体…21.9%〉

実に、20ある質問項目の半数以上について、「できている」として、高い数値になりました。

中でも、「友だちとなかよく」「家の宿題」「朝ごはん」の三項目は、「よく出来ている」だけでも、70%を超えていました。本校が大切にしている「生きる力」の「知育」「德育」「体育」の中で、「確かな学力」



「豊かな心」「健やかな体」を育てていこうとする方針から見ると、とてもうれしい結果であると言えます。ただ、「知育」の部分をくわしく見てみると、「読書」「授業中の発表」など、達成率が低い項目があります。何よりも、「勉強が楽しい」という項目では、昨年度後期の結果よりも改善されているとは言え、まだまだ、実感として楽しさを感じられていない児童がいるということが分かります。

今後も、まだまだ伸ばせる余地ある項目に着目し、より確かな成果・定着を求めて、取組の進め方に工夫をしていく必要があると考えています。指導者が日々意識して声をかけることで改善するものもあります。後期、心して徹底した指導を進めていきたいと思います。

## ④ 三者の傾向を比較してみましょう。



実現度 三者比較（「よく出来ている」の回答が多かったもの）			
児童 (%)		保護者 (%)	
	児童	保護者	
体	毎日しっかりと朝ご飯を食べている	76.0	
徳	友だちとなかよくなっている	74.3	
知	家で宿題をきちんとしている	74.3	
他	先生は、あなたの話を聞いてくれる	69.9	
他	学校でくばられたものをきちんと家の人にわたしている	68.9	
体	休み時間や放課後には、進んで外で体を動かして遊んでいる。	64.5	
徳	そうじや係の仕事がきちんとできる	63.4	
		児童が、毎日しっかりと朝ご飯を食べること	62.0
		児童が、毎日楽しく学校へ通うこと	55.6
		児童が、家できちんと宿題をすること	43.7
		児童が休み時間や放課後には、進んで外で体を動かして遊んでいる。	42.3
		児童が、たてわりで楽しく活動すること	41.5
		学校が、子どものことで相談したことについて、適切に対応すること	38.7

「よく出来ている」と回答した数が多かったものから順に並べてみました。

三者で同じ項目が高い回答率になっていることを見ることができます。

三者の回答傾向が同じであることは、学校の取組が適切に

評価されていることを表しています。この中には入ってはいませんが、先ほどの児童の実現度の高い項目の中にあった「学校が楽しい」は、三者とも高い回答率であることが分かります。また、児童からの相談、児童に関する相談についても、教職員の自己評価と児童・保護者の評価が重なります。これらの点は、われわれ教職員の励みになることに他なりません。これまでの取組をていねいに継続していくことを大切にしていきたいと、改めて考えます。

反対に、「よく出来ている」と回答した数が少ないものを探してみました。

「人の話を聞くこと」「授業中の発表活動」については、早急に改善することが必要であると分かれています。「話す・聞く」の学習については、なかなか一朝一夕に成果の上がるものではありませんが、これまでからも大切にしてきた取組の一つです。さらなる工夫をしながら、低学年からの積み上げの大切さも意識して、全学年で取組を進める大切さを感じます。

アンケート結果を後期の取組に生かしていきたいと思います。後期のアンケート調査にもご協力をお願いします。



# 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果より

去る4月21日に、本校6年生40名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。ここに本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総合結果(国語・算数・理科)

算数Aを除く全ての調査で全国平均を上回っています。全体的には、学力の向上が見られますが、さらにA問題にあるような基礎・基本の反復練習にしっかりと取り組むことで、知識・技能の定着が見込めます。

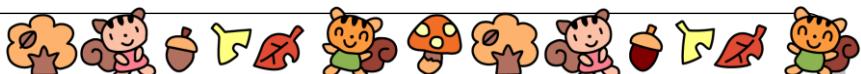


## 算数科より

「代金を求める」「見積もりから求める」など、生活に根付いた問題では、正答率が高かったです。生活場面で、算数の考え方を意識して使っていくことは大切ですね。

一方、「図形の知識を生かして考察する」「結果を元に判断する」など、想像力が必要な問題や、複合的な要素が入った問題では、正答率が低かったです。複雑な問題に対して、あきらめてしまう傾向があるのかもしれません。国語科同様に、根気よく問題に対する姿勢を育てましょう。

## 児童質問紙調査より



◎「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」は、全国平均をかなり下回ります。

起きる時刻はほぼ決まっているのに、生活が不規則になっていることが分かります。

◎「1日のテレビの視聴時間」は、4人に1人が4時間以上と答えています。

◎「地域・社会の問題や出来事に关心があるか」は、全国平均をかなり下回っています。

テレビの視聴時間はかなり多いが、社会性のあるニュース等にはあまり関心がないことがうかがえます。読書が好きな児童が多いのですが、読書の中身を点検することも必要ですね。

◎「家庭での予習・復習」も全国平均を下回りました。

決められた学習（宿題）だけではなく、自分で計画を立て学習を進めることは、見通しを持って行動する力につながります。見通しを持って取り組むこと、そして、根気よく取り組み、やり切ること。そんな力を普段の生活の中でも養っていくとよいなと思います。

## 国語科より

「必要な情報を読み取る」「内容を整理しながら記事を書く」設問では、全国平均をかなり上回る結果となりました。考えをまとめ、書く力が日頃のノート作りをはじめとする「書く」活動の成果として現れています。

しかし、無答で終わる問題も少なからず見られます。あきらめず、根気よく考える姿勢を育ていきましょう。

## 理科より

知識や技能を問う問題では、正答率が高かったです。それぞれの単元の学習で必要な知識が定着していることがうかがえます。

しかし、条件をもとに考察を加えたり、分析をしたりする問題では、正答率が低くなっています。算数科同様、身に付けた知識や技能を実際の生活場面で活用したり、理科で学習したものを見方を普段の生活でも行ってみると習慣がついてくるとよいと思います。